



# 学校だより

令和5年6月

— 第3号 —

## 心の「たい」を泳がせて

岩田 理恵子

6月、委員会活動が活発です。どの活動も、子供たちの発想や考えを生かした、顔の見える活動です。

プランニング委員は、まあるい心の北部っ子を目指して「ぼかぼか隊」を結成しました。掲示した「まあるい心の木」には、一人一人がされてうれしかったことや言われてうれしかった言葉を書いた葉っぱが今年も茂ってきています。環境美化委員は、日を決めていつもより5分早く掃除を始める「重点清掃」で全校に清掃ポイントを知らせ、図書委員は先生方に「おすすめの本」をアンケート調査し、図書室内にコーナーを作って紹介しています。スポーツ委員は、校内に潜む危険個所を洗い出してケガや事故のないように注意喚起し、保健委員は心の健康について考える集会で、北部っ子の現状と課題を題材に分かりやすく演じました。給食委員会は、気持ちよく給食を食べることができるようマナーについて呼びかけています。

児童が主役となり、様々な活動を繰り広げてほしいという願いを込めて、児童会始まりの会で子供たちに「心の中に泳ぐ『たい』」の話を紹介しました。見たい、見せたい、知りたい、知らせたい、聞きたい、教えたい、もっとよくしたい・・・という心の動きのことで、生まれた時から全員の心の中にいるよ、学校の中にたくさん泳がせるために、先生方はみんなを手伝うよ、アイデアをもってどんどん相談してね、と話しました。

しゅたいてき（主体的）という言葉の中にも「たい」があります。私たちは、子供の中の「たい」を伸び伸びと泳がせることはできているでしょうか。今はまだ小さな小さな「たい」であっても、大切に育てていきたいものです。



## 「養護教諭は暇そうな人？」

山崎 希実

「先生って保健室で何しているの？暇そうだね。」時々子供たちに言われる言葉です。「暇そうな人」と子供たちが思っているとしたら、それはわたしにとってとても嬉しいことです。一般的には暇な人だと思われることは、あまりよくないことのように捉えられると思います。ではなぜ嬉しいのか。それは、暇そうに見える人には、いつでも、気兼ねなく、話しかけることができるからです。忙しそうなお人には、子供は話しかけにくいですよ。これは大人も同じかもしれません。廊下をうろうろしていると「先生、あのね…」と子供たちは、勉強や習い事、友達のこと、家族のこと等、たくさん話をしてくれます。この雑談が、保健室経営をしていくうえでとても大切なのです。体調が悪い時、「習い事の話をしていたな。疲れたのかな。そこで感染症は流行ってないかな。」と考えることができますし、暗い表情の時には、「仲良しだと言っていた〇〇さんと最近遊んでいないな。何かあったのかな。」と考えることができます。子供たちの症状や困り事の背景には何があるのかを考える上で、「暇そうな人」だと思われることはとても有効なのです。

養護教諭の仕事は、子供たちの目に触れる部分としてはほんの一部です。担任のように、毎時間授業をして、プリントやドリルの丸付けをしながら、子供たちに次の指示を出す、といった忙しさありません。そのような中で「暇そうな人」になら話そうかな、と思ってくれる子供がいるならば、今後もいつでも話しかけやすい「暇そうな人」であり続けたいと思います。

### 【4年生 呉羽青少年自然の家で宿泊学習】

5 / 25 (木) ~ 26 (金)

「進んでチャレンジ みんなで成長 チームワークを高め 楽しく学ぼう」というめあてのもと32名で「焼きそば作り」「キャンドルサービス」「ザリガニ釣り」「オリエンテーリング」などの様々な活動を体験しました。



### 【6年生 立山博物館へ校外学習】

5 / 31 (水)

解説員の方から詳しく話を聞きました。立山の自然、立山信仰、布橋等について、知っているようで知らない新しい発見があったようです。ますます興味関心が深まった子供たちでした。



### 【4年生「ヤマメ稚魚放流体験学習」に参加】

6 / 15 (木)

栃津川を愛する会のみなさんが準備してくださったこの事業は4年ぶりの開催で、とても貴重なものでした。「ヤマメ」は、大きく成長して「サクラマス」になり、再び「栃津川」に戻ることもあるとのこと。子供たちは、「元気でね。」「また戻ってきてね。」と声をかけながら、500尾をそっと放流しました。

